

202510.6 (木)
第 14 回例会
(通算3823回)

2025-2026 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「笑顔と誇りを胸に、挑戦するロータリー」

会 長 荒井 剛
副 会 長 池田 一己
幹 事 横田 英喜
編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

例会日 毎週木曜日 12:30 ～ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F
☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2025-2026 年度
国際ロータリーテーマ

『よいことのために 手を取りあおう』
UNITE FOR GOOD

2025-2026 年度
RI 会長 フランチェスコ・アレツツォ
第 2500 地区ガバナー
佐渡 正幸 (釧路北 RC)

本日のプログラム ガバナー公式訪問例会 (理事会)

次週例会 米山月間にちなんで (米山記念奨学会委員会)

■ロータリーソング：君が代・奉仕の理想 ■ソングリーダー：佐々木 裕章君

■会員数 108 名

■ビジター 佐渡 正幸 2500 地区ガバナー・平澤 利秀第 7 分区ガバナー補佐
古俣 丈夫ガバナー副幹事・渡邊義和ガバナー副幹事

■ゲスト

会長の時間 会長挨拶 荒井 剛会長



皆さん、こんにちは。10 月 4 ～ 5 日、当クラブが地区補助金を活用した『釧路湿原を探索するツアー』に三役で参加してまいりました。

初日には平澤ガバナー補佐にもお越しいただきました。ありがとうございます。松井委員長、得地委員長にもお越しいただき、川島さんにも参加していただきました。

私は初めて参加したのですけれども、両日で延べ 40 ～ 50 名の小学生がいたと思います。ホントに楽しい思いをしました。胴長を履いて湿原の中にどんどん入って行って、私は知っていましたがガイドの新庄さんに連れて行っていただき、「ここが『やちまなこ』だよ」という所でどのくらいの深さがあるかと測ったら 2 メートルくらいあるのです。すぐ前の気づかないところで 2 メートルあるのですが、そこに胴長を履いた大人たちが胴長を履いた子どもたちを抱えて体験することもありました。

子どもたちは、ワイワイみんな入って。ホントは私も横田さんも入りたかったのですが、支えてもらえなくてそれはできなかったのです。

そこへの途中、湿原を歩く所も本当に湿原がフカフカしているんだと、大人と子どもに分かれて、「みんな、一斉にジャンプして！」とジャンプすると、みんなが

揺れて、そんな体験をする素晴らしい事業だと思いました。

両日あったのですが、私と横田さんは土曜日の午前中はあいさつに参加して、途中でリタイヤしました。日曜日は全部参加しました。

土曜日はローターアクトの地方協議会が釧路で行われました。釧路北ローターアクトクラブさんがホストで開催し、ガバナーの講演もありました。私は初めてローターアクトの地方協議会に参加したのですが、ローターアクトの方々、釧路北ローターアクト以外の 2500 地区の帯広ローターアクト、網走ローターアクト、富良野ローターアクト、他もいらっしゃったのですが、若くて元気があって、パワーがあって、面白いアイデアを出しながら地方協議会が行われました。

今年の目標として、ローターアクトクラブがどんな活動をしているのか、どんなことを行っているのかを身近で見たいと思いましたので、この協議会に参加したことは有益でした。この年に北ローターアクトの方にお越しいただいて例会の中でも「こんな活動をしています」というのを皆さんに話してもらおうと思っています。

その地方協議会の中で佐渡ガバナーの講演の最後に、マザーテレサの言葉を引用して話されたことは、「情の反対は憎しみではなく、何でしょうか」と問いかけをされました。知っている人は知っている。答えとしては「情の反対は憎しみではなく、無関心である」と。これは有名な言葉ですが、改めてこの言葉を認識して、これまでローターアクトを、インターアクトを

含めて無関心とは言いませんが関心が少なかったかなと思いました。

ローターアクトの地方協議会に参加して改めて、ローターアクトの活動、パワーを感じましたので、皆さんも何かの機会があればローターアクトクラブはこうなっているんだということを感じていただきたいと思った次第でした。

今日はガバナー公式訪問でして、このあと佐渡ガバナーの講演をいただきますので、よろしくお願いいたします。

以上で、今日の会長挨拶を終わらせていただきます。

幹事報告 横田 英喜幹事

ホワイトボードに第3回理事会の議事録を掲示しておりますのでご参照いただければと思います。

メンバーの皆様は 2025 年規定審議会によって改定された標準ロータリー定款に基づいて釧路ロータリークラブの定款も変更となります。その変更点、改正点をお渡ししておりますのでご確認をお願いいたします。

乾杯のあいさつ

白幡 博パスト会長

ご紹介いただきました白幡です。本日は佐渡ガバナー、そして平澤ガバナー補佐、古俣さん、渡邊さん、ご苦勞様です。ありがとうございます。ご来訪を心より歓迎を申し上げます。



先ほど、幹事からお話を聞いておりました。朝早々に、会長・幹事会、そのあと意見交換会と本当にありがとうございます。

いま、荒井年度は順調に活発に活動しておりますが、今日をいろいろなご指摘をいただいたと思います。さらに、ますますいいクラブ活動ができると思います。本当にありがとうございます。

また、ご存じかと思いますが、荒井君が佐渡ガバナーの背中を見ながら、しっかりと準備をしたいと思います。そこも今後、近くに、さらに近くに、ぜひ荒井君を育てていただきたいと思います。

そのことを含めまして、これから 24 ～ 25 日に地区大会もごぞいます。ガバナーにはますます頑張ってくださいなければいけないことから、ここで乾杯をしたいと思います。ご唱和をお願いいたします。

佐渡ガバナーのますますのご活躍、ご健勝をご祈念申し上げまして、今日は皆さんの笑顔で乾杯したいと思います。それでは
(乾杯)

ありがとうございます。

■本日のプログラム■ ガバナー公式訪問例会

第 2500 地区ガバナー 佐渡正幸君

2025・2026 年度国際ロータリー第 2500 地区のガバナーを務めさせていただきます、釧路北ロータリークラブ所属の佐渡正幸と



申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。(拍手) 公式訪問、ガバナーの務めでございますが 7 月 10 日から始まりまして、やっとう少して終わるところまで来ました。今日で 61 クラブ目ということで、あと 3 つということでございます。

本当に今年は非常に暑くて、7 月 8 月は十勝、旭川を周りました。もう死ぬかと思いました。36 ～ 37 度、市内のホテルはクーラー効いているのですが、地方に行くときクーラーがないのですよ。この厚いガバナージャケットは夏物ではないので汗を流しながら、1、2 回きくと熱中症になったのではないかとというぐらい。この辺が痛くなりながら、それぞれのクラブの活性化、元気なクラブになるためにどうすればいいか、を皆さんと一緒に考える、それが公式訪問の目的、主旨ですのでしっかりと伝えさせていただきました。

今日は、親クラブの釧路ロータリークラブです。今回の例会につきましては自己紹介、今年度の地区の活動方針、特に重点目標その部分について改めて説明をさせていただきますと思います。そして、地区大会と国際大会、私の考えるロータリーに対する思いを含めて 30 分ほどで話をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

知っている方もいらっしゃると思いますが、自己紹介簡単にさせていただきます。昭和 42 年の生まれで 58 歳になりました。日本全国には 34 の地区がありますので、34 人のガバナーがいて、私の年齢は下から 3 番目ということで非常に若い、まだ若輩者ですが、ガバナーという役目がありますので、いろいろとお話をさせていただきたいと思っています。

職業は司法書士を 30 年ぐらい、父親から含めて 60 年ぐらいさせていただいております。ロータリーの入会は 32 歳のときに入会しました。J C よりも先に何か分からずロータリーに入りました。早いもので 26 年が経ちました。最初の 10 年ぐらいは J C とか Y G の活動が中心になっていましたので、月に 1 回出るか出ないかの不良会員だったのですが、それが終わった後に 2013-2014 年に初めてクラブ幹事、その時のガバナーは葎本先生でした。

その後、1 年間だけローターアクトの地区の委員長を

させていただきました。2015-2016 年、ちょうど 10 年前の白幡さんがガバナー補佐の時、48 歳の時にクラブ会長をさせていただきました。2023-2024 年度はガバナー補佐ということでこの時のガバナーが紋別港ロータリークラブの鶴見誠一郎君です。彼も 48 歳で非常に若いガバナーを支える立場でした。去年がエレクト、今年がガバナーということで役目をさせていただいているところでございます。

釧路ロータリークラブ様におかれましては、1936 年の創立で、来年 90 周年ということです。地区の中においても旭川そして帯広の次で 3 番目に古いクラブです。会員数が 7 月 1 日現在で 101 名、この 3 カ月間において、6 名の会員増強いただいています。女性会員が今のところ 0 ということです。後でも話しますが、私の会員増強の今回の目標が 2500 名という本当に高い目標を掲げさせていただきました。後でその理由を話しますが、いま現在で純増が大体 70 名、予定者もいますと 100 名ぐらいの会員を純増いただいております。本当に高い数字できていますので、ぜひともこの数字をもっともっと上げていく活動をしていきたいと思っております。

そして、本年度の会長が荒井さん、幹事が横田さんということでございますので、私もガバナーとして同じような世代ですので、しっかりサポートさせていただきたいと思っております。

それでは、本年度の地区のスローガンについてお話をさせていただきますと思います。『Rotary のことを熱く語ろう！～ Rotarian Benefits を紡ぎ、そして育むために～』というスローガンを掲げさせていただいております。数年前にはコロナという部分でこのように集まって例会ができない、そういう事情もあったり、あるいは松田年度においては地区大会も開催されなかったり、あるいは国際協議会というガバナーになるために出なければいけない会議があるのですが、それも ZOOM 開催されたり、ということがあったのですが、完全に終結はしていませんがコロナもほぼ落ち着いた、そういう段階において改めて皆さんと一緒にロータリーのことを熱く語る、そういう 1 年間にしていきたいという思いでございます。その中に Rotarian Benefits という言葉を使いましたが、いわゆるロータリーから与えられた恩恵、それを一人一人紡いで思い出させていただきたいと思えます。

私は、32 歳の若さでロータリーに入会しました。うちのクラブには新入会員いじめで、皆さんの前で 30 分間の新入会員卓話をしなきゃいけない儀式があるのです。私もやりました、汗を流しながら。そして大先輩の千田さんが寄って来て「佐渡君、今日の話はなかなか良かったぞ」みたいな優しい言葉をかけてくれたのです。そういう先輩からの優しい恩恵、あるいは会長、幹事をやった時に、私が会長をやったときに年会

費を 10 万下げました、夜例会も増やしました。そして新入会員 10 人増やしました。これに関してはベテランの会員の方はみんな大反対「なんでそんなことするんだ」と。その時に、うちのクラブ会員が 60 人ぐらいまで減っていたのです。このまま何もやらなければとどんどん減っていく。若い会員が入りやすい運営組織を作るにはどうしたらいいか。それはまず時間とお金でしょうと、そういう部分で下げて、その代わりベテランの会員には必ず成果は出しますと 10 人は必ず入りますという誓いのもとやって、その弾みでうちのクラブも若いメンバーが増えているとそういう思い出、恩恵、役職を受けた後の充実感、満足感、皆さんに対する感謝の気持ち、それをロータリーから与えられたと思います。

それぞれの地域の奉仕活動、国際的な奉仕活動において、先ほど荒井会長からもありました地区補助金の事業、私がガバナー補佐の時に後藤会長が立ち上げてやった事業ですね。ちょうど 3 年経ったのだと思いますが、本当に素晴らしい事業だと私も思いました。まさに子どもたちが自分の地域の知らないことを知って、郷土愛を持って成長していく、その時の過程において、おそらくロータリーのことを分からないかもしれないけど、どっかの自分の地域のおじさんたちが集まって、自分たちのために行ってくれたという思い、まさに目をキラキラ輝かせながら得た体験の感動。あるいは活動奉仕の活動においてもグローバルに活動する時も、発展途上の子どもたちは涙を流しながら、おじさんたちが綺麗な水を与えてくれる事業、ちゃんとしたトイレを与えてくれる事業、そのことによって命を救われるだけ涙を流しながら感動してくれるのです。

そんな恩恵を一つ一つみんなと紡ぎながら、そして熱く語りながら、釧路ロータリークラブにおいては、まさに 90 周年に向かって育む、そういう活動をしたいという思いのスローガンでございますので、ぜひともご理解をいただきたいと思います。

その中の活動では、掲げた会員増強からファンドレイジング、ポリオ根絶、青少年奉仕ですが、当然、ロータリーは奉仕団体ですので、社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕を大切にして地区としても活動を行います。今年は特に会員増強、そして以下の 3 つについて重点目標とさせていただいております。

会員増強の目標について説明をさせていただきます。地区内の会員数を 2500 名という非常に高い水準で陳情していきたいと思えます。本年度の期首は会員数が 2300 人弱です。ですから 200 人以上の純増となると、おそらく日本の中でもトップ 1 レベルの会員増強になると思っております。

私がこの目標を掲げた大きな理由です。私たちの地区の 30 年前は今よりも 1000 人多い 3300 人の会員が

いたのです。平成の30年の時を経て、じわじわと1000人減っていきます。その主な原因はおそらく人口減少、少子化高齢化でしょう。間違いなくそうでしょう。私たちの釧路市では、昨年1年間に生まれた子どもの数がもうすでに700人を切っているのです。西田君の時には多分3000人とか4000人いたのです。それが700人を切っているのです。そして今年の1月の1カ月に亡くなった数が300人を超えているのです。ですから、30年間でわれわれの地区の会員1000人が減った。10年もしないうちに、このまま地区も、それぞれのクラブも会員増強に対する自覚をせずに、行動を起こさなければ1000人以上の数が間違いなく減る、そういう私は危険を感じての目標なのです。しかもR I国際ロータリーは、その1つの地区が1100人の会員を割ると、その地区を強制的に消滅させます。ですから申し上げたとおり10年間に置いてわれわれ会員増強に対して何の行動も起こさなければ地区がなくなる。

そうすると、今、地区にある64クラブのうちほとんどがなくなると思います。半分以上がなくなると思います。つまり、われわれが何十年もかけてロータリー運動をとおして生活、経済、青少年に対するスポーツ・文化・芸術など地域にあらゆる貢献をして、秩序を守りながら行っていたロータリー活動がなくなってしまう、そんな悲しいことはないですよ。そのためにぜひとも会員増強をしていきたいという思いでございます。

そして、その中において、われわれの活動であるファンドレイジング、いわゆる財団等への寄付の推進です。R Iも、私としての目的も年次寄付に関しては1人150ドル、ポリオ根絶に関しては1人50ドル、米山奨学金については1人6000円を目標とさせていただいております。当然、寄付は強制ではなくて任意です。その人の気持ちにおいて寄付が必要だと思う人が寄付をする形です。いま、申し上げた寄付額は1ドル150円で計算すると年間で36,000円となりますので、単純に1日あたり100円を寄付すると目標を達成することになります。

この1人36,000円を寄付するという額は、日本にある2200近くあるロータリークラブの100もないのです。この100円が本当に高いレベルなのです。日本のロータリーはイントネーション・寄付への観念がちょっと低いかなと思うのです。

まだまだ日本は平和だと言えます。われわれがロータリー財団に寄付したお金は、グローバル補助金などを通じて7つの重点分野にお金が使われています。まずは、平和と紛争解決について現在は6500万人の人が武力行使、いわゆる戦争によって家を追われています。難民化している状況です。そして、その平和を守るために『平和フェローセンター』が、世界中に8つ

の大学が指定されて、これから平和を維持していく人材をつくっている活動です。

疾病予防と治療の分野では、医療が原因で毎年1億人以上の人が貧困に陥っている。水と衛生に関しては、なんと25億人以上の方が衛生的に水を十分に飲むことができず、毎日、3000人の子どもがその水を飲んだことによって下痢性疾患で命を落としています。毎日です、今日も3000人が亡くなっているのです。母子の健康については、毎年、医療が原因で700万人の5歳以下の子どもが亡くなっています。いわゆるポリオも含まれますね。そして、基本的教育と識字率向上については、6700万人の子どもが十分な教育を受けられず、その果てには8億人の大人がまったく読み書きができない世界になっています。地域社会の経済発展においては、なんと14億人以上が1日1.25ドル、日本円になおすと187円で生活をしなければならない。そして、環境については、正に温暖化、CO₂によってわれわれの地域、世界的に海洋・山林の破壊の環境を保全するためにわれわれが財団に寄付したお金がこの世界の平和のために使われています。そして、高いレベルの寄付、1日100円でわれわれは世界に貢献する。ロータリアンであるからできる、そういう活動をしていることをご理解いただきたいと思います。

次の重点目標はポリオ根絶活動です。先ほどの意見交換会では「もうそろそろ、ポリオはいいのではないか」という声がありました。ほかのクラブにおいてもそういう声がたくさんあります。

しかしながら、われわれはこのポリオ根絶の活動を40年以上前からやり続けています。数年前には、アフガニスタンとパキスタンに数年前に行ったのですが、戦争によってガザ地区、あるいはアフリカの地区で別の株が発生している状況にあります。ポリオについては、WHO、ユニセフ、ビル・ゲイツ財団が「われわれが寄付したお金の2倍の額をポリオが根絶されるまで永遠と寄付し続ける」と誓約しています。ロータリーのみならず、世界的な活動になっていることをご理解いただきたいと思います。

そして、人類が伝染病というものを克服した事例はひとつだけ、天然痘です。しかも、人類は300年から400年かかりました。まさに、ワクチンがなかったからです。われわれがポリオに対して寄付しているお金は、1本60円のワクチンを5歳未満の子どもが飲むか飲まないかによって、いわゆる小児マヒで手足が不自由になるかならないか、つまり、そうになってしまうとその子どもたちの将来の夢や希望がなくなりますね、そういう活動をわれわれはしっかり40年かけて、しかも、世界のそれぞれの保健機関が賛同しながらやっていることをご理解いただきたいと思います。そして、先ほど申し上げたひとつしかない天然痘の克

服、まさにわれわれ人類は2番目の伝染病の克服に向かっていて、人類の史上に残る活動をしていることにご理解いただきたいです。根絶された暁には、ロータリーの素晴らしさ、ロータリアンとしてのブランドを共有できる活動であることをご理解いただければと思います。

最後の重点目標は、青少年奉仕の活動です。われわれロータリーは1960年代からインターアクト、ローターアクト、ライラセミナー、青少年交換と、青少年を育成するプログラムを65年以上、継続してやっております。先ほど申し上げたポリオ根絶活動がわれわれロータリアン、人類が必ず根絶させなければいけない奉仕活動に対して、この青少年奉仕活動はその逆です。未来永劫、次代を担う青少年のために大人として、ロータリアンとして、続けていく奉仕活動です。そのことを改めてご理解いただきたいです。

われわれの地域には、ローターアクト、インターアクトという青少年の団体があります。最近、青少年とロータリアンとの間のいろいろなトラブル、ハラスメントがたくさんあります。同じ奉仕の精神を貫く仲間として、同じ目線で活動に取り組んでいていただきたいと思います。そのためには、それぞれのクラブの活動に参加することが大事だと思っています。

よく、エンジョイ・ロータリーという言葉を使いますが、僕が思うには、まず参加する。その中から学ぶ、その学んだことを実践する。この3セットがエンジョイ・ロータリーと思います。それがロータリーの活動のみならず、ローターアクト、インターアクトのそれぞれの活動に参加することによって、お互いがロータリーファミリーとして共有する、そういう活動することによってお互いの信頼関係を広めることによってロータリーの公共的なイメージにつながると思っております。

いま申し上げました重点目標については、このプラス循環で説明したいと思います。

まず、会員増強することによって寄付の精神・ファンドレイジングが図れ、その財団の資金をもって奉仕事業の充実が図れ、その奉仕事業を地域に発信することによる公共イメージの向上、それがまた会員増強につながる。まさにプラス循環です。

これは、去年の小谷ガバナーが提唱していたプラス循環の図です。私も地区としてしっかり継承しながら、これを中長期目標としてそれぞれのクラブに発信していきたいと思っています。この会員増強からスタートするプラス循環は、実は奉仕事業の充実、今いるメンバーの中でもっといい奉仕事業はできないか、いまある事業をどうすればもっといい奉仕事業になるか、そこを考えてしっかり奉仕事業を作った中で公共イメージ、そしてそれに賛同してくれる会員、この会員がロータリーの活動を理解してくれる会員につながると思い

ます。それぞれの順番でこのプラス循環を進めていきたいと思います。

私の考えるロータリーの魅力について話させていただきます。これからの活動において、会員を増やしていくことが大事です。この少子化の中において非常に少ない分母でどうやって会員を増やしていくのか。とても難しい問題だと思いますが、それぞれのロータリアンがロータリーに対する魅力を理解しないと人を誘えません。「ロータリーに入りませんか」と言っても、「ロータリーには何がいいことあるの」とメリットについてロータリーの魅力を考えていただきたいと思います。

まずは、私がロータリーに入ってから魅力、それは中核的価値観・コアバリューという部分がロータリーではよく言われます。5つあります。親睦、奉仕、多様性、リーダーシップからの高潔性、この5つがロータリーの中で得られる価値観と言われます。単純に親睦といってもロータリーの親睦は深いですね。単に飲み会をセッティングするだけではないです。そこに来た人への思いやり、来た人にどうしたらこの人は喜んでくれるか、そういうことを考えながら。すごく深い親睦。この親睦を経た中のエネルギーとして地域に対する、あるいは世界に対する奉仕活動が展開されて、その中においてジェンダー・男女、国籍、世代、あるいは業種、いろいろな人との多様性をもって関わることによって、その一人のロータリアンのリーダーシップというものが生まれるのをロータリーの中で経験できます。

そのリーダーシップをもって自分たちの職業をとおして社会に還元する、これをロータリーの中で得られる、これが中核的価値観・コアバリューと言われているものです。

ロータリーには、さらに、品格がある親睦、品格がある奉仕、品格があるリーダーシップ、とさらに高いものが得られるのがロータリーの魅力ではないかと思っております。

次は、職業奉仕の理論です。これについてロータリーは、1905年から120年間続いている団体です。この続いている理由は、まさに職業奉仕という考え方があったからこそ継続していると私は思っています。

Service Above Self、超我の奉仕という言葉です。「自分自身の利益を考える前に他人のためになることを人の道として考えましょう」という教えです。

そして、One Profits Most Who Serves Best、最もよく奉仕する者最も多く報いられるという言葉で、いわゆる奉仕の精神をとおして自分自身の成長、自分自身の幸せにつながるのでぜひとも奉仕をつなぎましょう、という言葉で両方とも1911年に発せられた言葉です。110年以上、この言葉を守りながらわれわれは活動を続けております。最近少し、この職業奉仕に

対する考え方が薄くなってきていると思います。
社会に対し、あるいは国際的な部分に対しても、奉仕活動をするにあたって、職業奉仕という理論、考え方、志を持っているか持っていないかはとても重要だと思います。うわべだけの奉仕活動にならない、この考え方を持っているからこそロータリーとしての奉仕活動ができると思っていますので、それを得られるのがロータリーの魅力かなと思っています。

そして最後は、国際的視野。ロータリーはインターナショナルという部分において、115万人の会員を抱えている組織です。ですから、自分の気持ち次第でいろいろなことの情報を得られます。先ほどの7つの重点分野、それぞれの月間をとおして『マイロータリー』から情報を仕入れながら国際的な視野で物事を見る。その考えを自分たちのクラブ、ローカルで実践していくことが大事です。その地域に合ったニーズ、国際的な考えにおいて青少年たちに対してどういう奉仕をすることがこれからこの地域が、この地域の子どもたちが世界に羽ばたく子ども、世界のためになる子どもを育てるべきか、をしっかりと国際的な視野で得られる。この三つが私が思っているロータリーの魅力かなと思いますので、ぜひご参考にしていただければと思います。

地区大会と国際大会についてお話させていただきます。

慣例ではありますが、地区大会において全員登録でご協力をいただきましたことに心から感謝申し上げます。この黄色い部分が今回の地区大会で変わる部分です。

今回の規定審議会において地区大会は強制ではなくて、任意開催になりました。ガバナーの考え下において地区大会をやってもやらなくてもいいことになりました。これはどういうことなのか考えました。地区大会がひとつのお祭りになってしまっていて、ホントにロータリーのことを考える機会になっていないから、そこに金をかける必要はないのではないか。それはガバナーの判断で行ってくれという考えがあるのではないかと私は思いました。

ですから今回の地区大会においては、タレントとか著名人は呼んでおりません。登壇する人はオール・ロータリアン、しかも、アクトもあります。衛星クラブもあります。若い人もたくさん入ってもらって、ロータリーの10月23日までに行っている活動の報告、残りの8カ月間でどういう活動をするによって先ほどの重点目標を達成できるかを皆さんと熱い語りの中で考える地区大会にしたいと思っています。

そして24日はポリオデーとして、国際ポリオデーの日と重なりますので一緒に開催したいと思います。参加クラブ紹介につきましては、午後1時30分から開催します。2500地区、本当に北は稚内・利尻・礼

文からお見えになるので午前中は間に合わないクラブもあるということで、参加クラブ紹介は午後から行います。平澤ガバナー補佐のもと、釧路ロータリークラブは1番目に紹介されますので、大きい声でご挨拶いただければと思います。いま準備が大変な時期ですが、1人でも多くの皆さまに参加いただきたいと思います。

そして国際大会です。今年は台北です。釧路クラブにおかれましては、11月に台北の地区大会にも行くということで話を伺っておりますが、国際大会という違う形で台北を感じていただきたいです。そしてプラス、200以上の国と地域が集まっての国際大会ですからいろいろなプログラム、いろいろなアトラクションがあって、正に国際的な視野でロータリーを楽しめる。6月14日に事業を全部積めるようにしました。日本人朝食会ということで、登録していただいた方には朝7時から1000人の日本のロータリアンが集まっての朝食会、開会式は多いですから午前と午後に分れて、そこに200の国と地域から国旗が揺れながら、あれはガバナーが振るときがありますから、私が振るかもしれないませんが、振りながら入場して国際的なアトラクションがあります。一度は経験していただきたい。そして2500地区からお集りいただいた皆さまと地区の大懇親会を開催しますのでお願いいたします。

これは5月に事前に私たちのクラブで見に行っていますので、見る所も食べる所も素晴らしい所ですのでぜひともご参加いただければと思います。

最後に私のロータリー観について話してきましたが、今年もガバナーとして、そして、これからもロータリアンとして、こういう思いで活動していきたいと思っています。

先ほど申したロータリー・ベネフィット、恩恵をひとつひとつ大切にしていきたい。ロータリーから与えられたものをひとつひとつ大切にしていきたいという思いでございます。

そして、いま思っている恩恵は、人から与えられるものではなくて、自分が、人に与える、そういう利他の心を教えてくれたロータリーに感謝したいと思っています。そして、そのためにはロータリーモーメント、ひとつひとつの例会、あるいはセミナー、などをとおして感動する心を広げてロータリーに参加していきたいと思っています。ロータリーのいろいろな経験を積んで他の誰とも比べるわけではなくて、自分自身の信念としてロータリアンで良かった、ロータリーの活動をとおして自分の人生が豊かになった、ホントに素晴らしい仲間と知り合えた、と思えるロータリー活動をこれからも進んで行きたいと思っています。

結びですが、今回の公式訪問は64クラブ、64分の1という気持ちでそれぞれのクラブに参加していることは決してございません。常に64分の64、自分の

思いを 100 パーセント発信する活動を行っています。
その目的は冒頭に話しましたが、それぞれのクラブが
元気なクラブ、魅力あるクラブになるために必要なの
はこういうことですよ、と伝えるために活動させてた
だいております。

私が思うには、それぞれのクラブのベテラン、中堅、
そして若手の会員が改めてロータリーに対する情熱、
パッションを持って
いただいて、自分の
クラブ・釧路ロータ
リークラブがやっぱ
り一番いい、一番好
きだ、という友情・
フレンドシップを



持っていただくことが非常に大事と思っています。そ
のためには、ロータリーのことを熱く語る釧路ロータ
リークラブの一年間の活動としていただきたいと思っ
ています。私もガバナーとしてしっかりクラブをサ
ポートすることをご誓約申し上げまして、私からの講
演とさせていただきます。最後までのご清聴、誠にあ
りがとうございました。

(バナーの交換)

(点鐘)

本日のニコニコ献金

■佐渡 正幸ガバナー

■平澤 利秀第7分区ガバナー補佐

今年度累計 75,000 円